

平成28年度

## 基本構想書

地域資源プラットフォーム  
のビジョン、方向性、  
事業イメージを提示

平成29年度

## 計画書

詳細な事業計画  
組織形態等  
具体的な計画を提示



今後議論すべき論点：

- ・“いのちめぐるまちのしくみ”の具体的なイメージ
- ・地域資源/環境研究機能の具体的な事業内容
- ・人材教育機能の具体的な事業内容
- ・資源価値向上/事業創出機能の具体的活動内容
- ・資源価値向上/事業創出機能は組織としてやるのか、協議会としてやるのか
- ・組織形態を決めるための資金調達先、クライアントイメージ
- ・組織として持続するための経営戦略
- ・誰が組織を担うのか？

## 議論の流れ

第1回 地域資源/環境研究機能

第5回 予備、ブランド基準

第2回 資源価値向上/事業創出機能

第6回 予備、ブランド基準

第3回 人材育成機能

第4回 組織（形態、担い手）  
全体まとめ

# いのちめぐるまち

※まだ案の段階です。

～ひとが自然との共生の中で豊かに暮らし続けられる町～

## 1 森里海とひとが豊かに関わる町

ひとの活動をとおして、森里海とひとのつながりが生まれ、その結果、地域のひとや生物がいきいきと生きられるまち。

## 2 エネルギー自給率が高い町

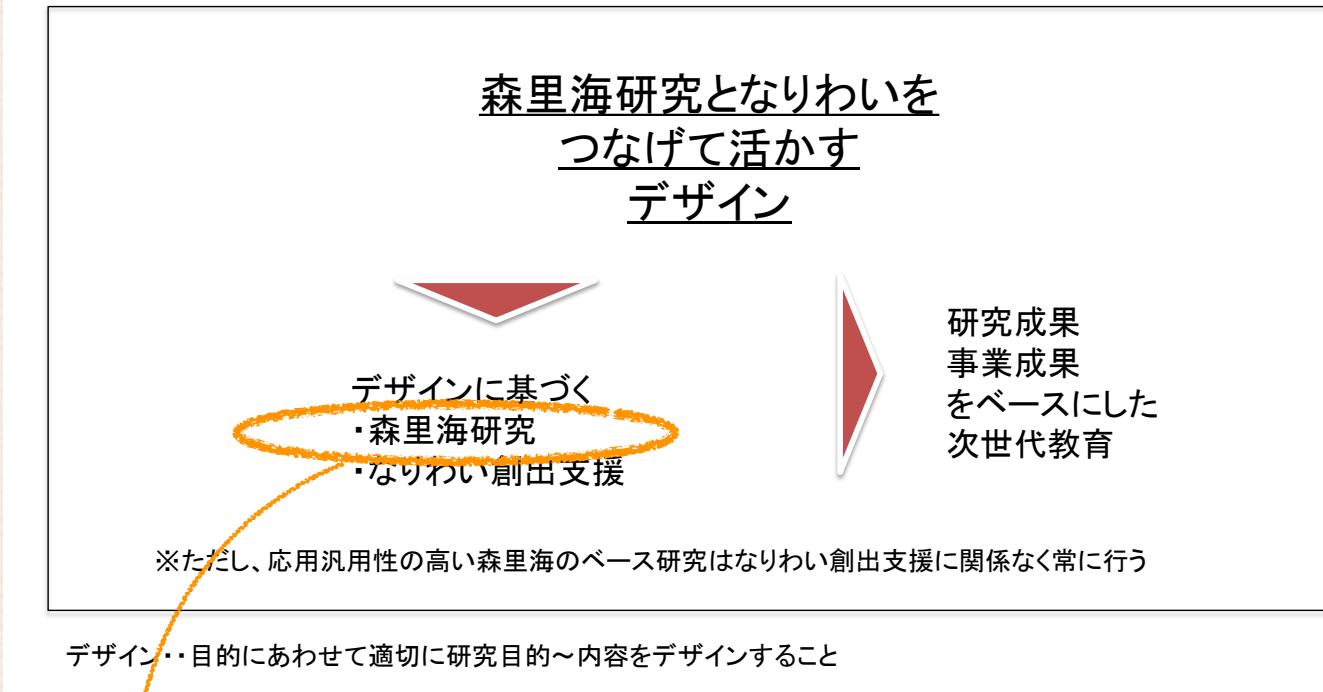
地域内で一定のエネルギーが生産され、エネルギーの自立に向けた道筋が見えているまち。

## 3 人材の育成と交流を促進する町

いのちめぐるるまちの理念を理解し、その実現に向けなりわいや生活の中で自分ごととして取り組む人材が育つまち。また、外部の多様な人材との交流をとおして、その理念が広まり深まっていくまち。

# 地域資源プラットフォームのミッション (p.19)

いのちめぐるまちのしくみをつくること  
(=持続可能な地域社会のしくみづくり)



## ● 森里海ひとのつながりを知る (地域資源／環境研究機能) (p.20)

その具体的な内容イメージ、方法、資金調達等について

⇒ 第1回の検討項目

## 地域資源研究のステップ<sup>①</sup>

### 1, 先行リサーチによる現状把握



- ◇南三陸の価値の可能性を探る
- ◇森里海の関係性を捉える

### 2, いのちめぐるまちを実現する地域デザイン



- ◇地域の将来像を描く
- ◇取り組むべき優先課題の重み付け

### 3, 地域デザインに基づいた地域資源研究

- ◇収益性と生態系の価値向上の両立を図る森のデザイン
- ◇森の将来デザインを実現する道筋での町内エネルギー創出と活用方策の提案

## トピック 東北大学との共同研究テーマ（先行リサーチ）

### ◆南三陸の「価値の可能性」を探る

- ・経済性だけではない地域の価値の計測手法を用い、南三陸の価値を見える化し、その最大化のための道筋を提案する。

経済指標

CO<sub>2</sub>吸収量

生物多様性

森林貯水量

•

•

現状評価

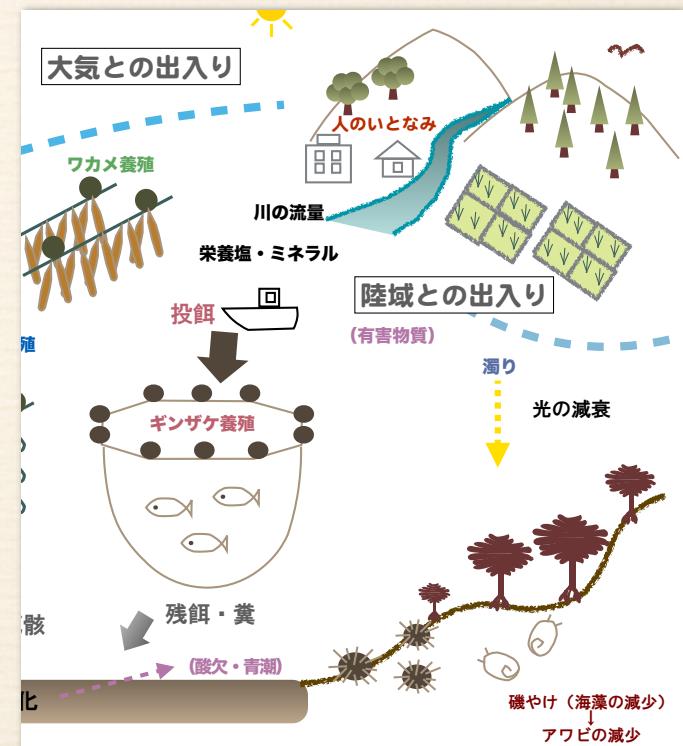
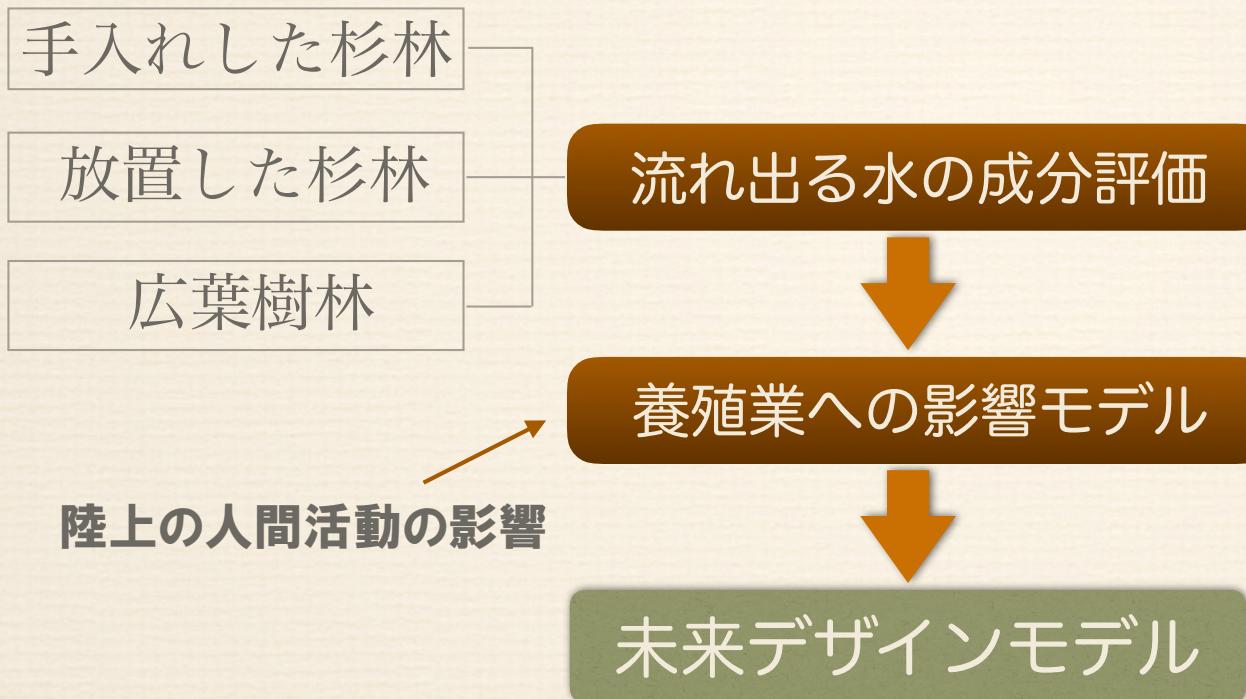


未来デザインモデル

## トピック 東北大学との共同研究テーマ（先行リサーチ）

### ◇森里海の関係性を捉える

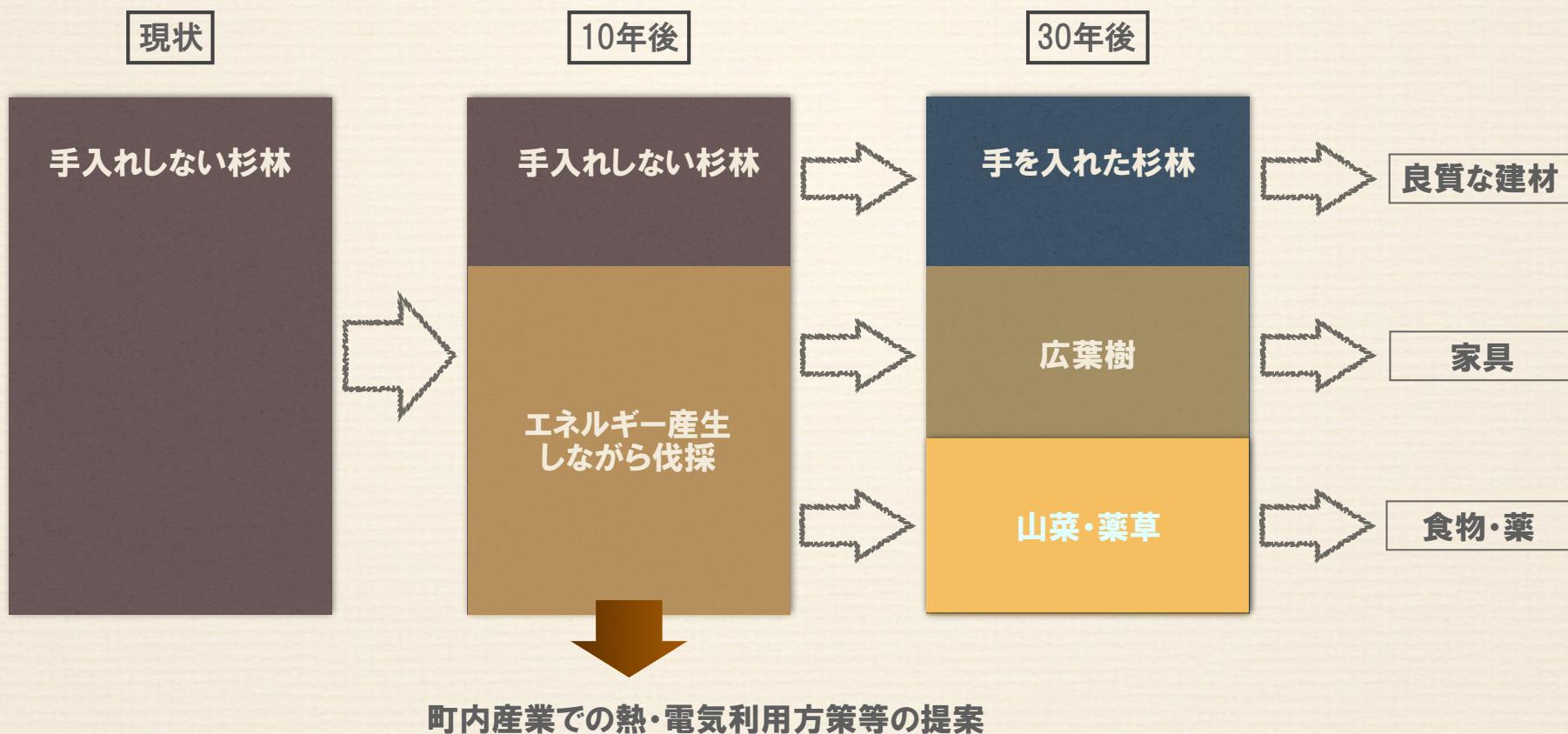
- ・状態の違う山林から流れ出る水の採取・分析により、山林の状態がカキ養殖等に与える影響を評価できるモデルをつくる。



## トピック 東北大学との共同研究テーマ（先行リサーチ）

◇森のデザインとエネルギー自給向上の実現可能性を探る

- ・森のリデザインにより、長期的に収益を向上させる方策と、町内でのエネルギー生産・活用方策を検討し、これらを組み合わせた事業構築可能性の検討を行う。



## 活動イメージ

## a:基礎研究

大学ができなくなりつつある博物学的研究

ラムサール条約登録要件のモニタリング

森里海ひとの豊かさ指標開発

町内資源の可能性と限界の見極め

森里海連関モデル開発

モデルの開発によるコンサルティング

森のリデザインと町内エネルギー活用方策の提案

客員研究員制度

他地域の調査

ASC、FSC要件の生物・環境調査

展示施設

## b:なりわいに資する活動

## C:組織を維持するための活動

## 予算イメージ：

研究機能検討

収入	1年目	2年目	3年目	5年目	10年目
	2018	2019	2020	2022	2027
調査委託		1,000,000	1,000,000	2,000,000	5,000,000
日本財団資金	2,000,000	2,000,000	2,000,000	2,000,000	2,000,000
科研費			1,000,000	2,000,000	2,000,000
企業協賛金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
町拠出金	7,000,000	7,000,000	7,000,000	7,000,000	6,000,000
	10,000,000	11,000,000	12,000,000	14,000,000	15,000,000

支出	1年目	2年目	3年目	5年目	10年目
	2018	2019	2020	2022	2027
研究員1※	4,000,000	4,000,000	4,000,000	6,000,000	6,000,000
研究員2※	3,000,000	3,000,000	3,000,000	5,000,000	5,000,000
研究費	1,000,000	2,000,000	2,000,000	2,000,000	2,000,000
間接費1	2,000,000	2,000,000	2,000,000	2,000,000	2,000,000
	10,000,000	11,000,000	11,000,000	15,000,000	15,000,000

※3年目までは、地域おこし協力隊制度を活用した受入

注) 組織立ち上げ費用や、施設整備費含まず（200～2,000万円程度を想定）。

## 資金調達：

- 当面は町の拠出金をベースとして、日本財団資金や科研費を積極的に狙いに行く。
- 企業協賛金や調査委託費に関連する事業費率を上げていく。